

能楽の認知科学的考察：概念統合ネットワークの視点から

札幌国際大学短期大学部

瀧沼 潤

junkatan@hucc.hokudai.ac.jp

1．能楽研究の現状と問題点

能楽を総合的な舞台芸術として研究しようという動きは、盛んになってきてはいるものの、国文学における演劇研究の置かれている立場や、演劇を教える独立した学科や学部がきわめて稀であるという現状もあって、十分とはいえない。だが、舞台芸術としての能楽の研究を困難にしているのは、とりもなおさず、能楽のトータルメディアとしての総合性そのものによるところが大きい。

能舞台において発せられ、統合される、文学、音楽、舞踊、建築、歴史など様々なメディアからの情報を統合的に捉えるためには、能楽を認知体験として考察することが有効であると考え。本稿をそうした、統合的研究の一端として位置付けてみたい。

2．概念的統合ネットワーク (Conceptual Integration Network) とは

3．概念的統合ネットワークとしての能舞台

4．研究の展望

文献

Fauconnier, Gilles., Turner, Mark. (1998). Conceptual Integration Networks. Cognitive Science, 22 (2), 133-187.

西野春雄、羽田昶 (1987). 『能・狂言事典』. 東京：平凡社.

能・トータルメディアの生成. 『国文学解釈と教材の研究』.(1986). 31 (10).

Pavis, Patrice. (1982). Language of the Stage: Essays in the Semiology of the Theatre. New York: Performing Arts Journal.

新潮日本古典集成『謡曲集 上』.(1983). 東京：新潮社.

Turner, Mark. (1996). The Literary Mind. New York: Oxford UP.